

**立教大学学術推進特別重点資金（立教 S F R）**  
**プロジェクト研究（自由プロジェクト研究）**  
**2013年度研究【経過・成果】報告書**

研究代表者	所属・職名	氏名			
	異文化コミュニケーション学部／研究科・教授	武田 珂代子 印			
研究課題	翻訳「革命」期における翻訳者養成の新たなコンテンツと方法に関する学際的研究				
研究組織	所属機関・部局・職名	氏名			
	立教大学異文化コミュニケーション学部／研究科教授 立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科兼任講師 東京大学大学院教育学研究科教授 麗沢大学、立教大学、神戸女学院大学、青山学院大学兼任講師 ダブリン・シティ大学応用言語異文化間研究科上級講師 モントレイ国際大学翻訳通訳言語教育大学院助教授 クレストック	武田 珂代子 井口 耕二 影浦 峡 山田 優 オヘイガン統子 ラッセル秀子 関根 康弘			
研究期間	2012 年度		～	2013 年度	
研究経費 (上段：支出金額) (下段：採択金額)	2012 年度		2013 年度		総計
	3,000	千円	2,975	千円	5,975
	3,000		3,000		6,000

**研究の概要** (200～300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

グローバル化、多言語多文化共生社会、インターネット上情報の爆発的増加を背景に、異言語・異文化間コミュニケーションの仲介者としての翻訳者の役割は益々重要になっている。その中で、機械翻訳、翻訳支援ツールの進展、ボランティアによるオンライン翻訳の普及、翻訳産業構造のグローバル化などを背景に、翻訳者を取りまく状況に「革命」が現在進行中だという指摘がある。本研究の目的は、現在の翻訳「革命」期そして今後求められる翻訳者コンピタンス（能力）を見極め、それを基にした翻訳者養成のコンテンツと方法をデリバリー手段（媒体）も含めて学際的に産学協同で検討し、翻訳教育の新たな方向性に貢献することである。

**キーワード** (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[ 翻訳者養成 ] [ 翻訳者コンピタンス ] [ 翻訳環境の変化 ]

**研究【経過・成果】の概要** (図・グラフ等は使用しないこと。)**1. 研究者の役割分担** 2013年度における各研究者が果たした役割は以下の通りである。

武田：本研究全体の管理、翻訳者養成について教育者・研究者として知見を共有。新科目・合同ワークショップ(WS)の責任者として、立案・実施・自己点検に従事。

井口：合同WSおよび研究会に参加し、翻訳実務者・教育者としての知見を共有。

影浦：合同WSおよび研究会に参加し、言語論、自然言語処理の研究者として、研究の方向性に関する示唆、ボランティア翻訳用プラットフォームの応用に関する知見を共有。

山田：翻訳実務者・教育者・研究者として、特に翻訳メモリーや翻訳業界の動向について知見を共有。新規科目・合同WSの立案・実施・自己点検に従事。

オヘイガン：翻訳テクノロジー研究者・教育者として、テクノロジーと翻訳者養成に関する包括的視点と世界的動向の情報を提供。新規科目の立案・実施・自己点検に従事。

ラッセル：合同WSおよび研究会に参加し、翻訳実務者・教育者として、特に米国の翻訳専門職大学院について知見を共有。合同WSの米国側責任者。

関根：合同WSおよび研究会に参加し、翻訳プロジェクト管理者、システムエンジニアとしての知見を共有。

**2. 研究会の実施** 2013年度、立教大学で研究会を6回実施した。

第1回研究会(2013年6月17日)：初年度研究成果の自己点検、台湾・オーストラリアの翻訳大学院調査報告、2013年度実施の翻訳関連新規科目の確認、大学間合同WSの計画、研究成果出版などについて議論。ラッセルはスカイプで、オヘイガンは文書提出で参加。

第2回研究会(2013年11月26日)：翻訳テクノロジー評価に関する合同WSの実施後、同WSの内容およびスカイプ接続など技術的側面などについて振り返り、次回WSの計画を立てた。モントレイ国際大学および台湾・輔仁大学はスカイプで参加。

第3回研究会(2014年1月18日)：輔仁大学翻訳通訳大学院責任者の楊承淑教授を迎え、台湾における翻訳大学院の歴史、カリキュラム、課題などを講義していただき、日本の状況に照らした議論を行った。

第4回研究会(2014年1月26日)：文芸翻訳に関する合同WSの実施後、同WSの内容およびスカイプ接続など技術的側面などについて振り返り、次回WSの計画を立てた。モントレイ国際大学はスカイプで参加。

第5回研究会(2014年2月21日)：2年間の研究活動を振り返り、成果を自己点検するとともに、研究成果を出版する計画や今後の研究の方向性を確認した。ラッセルはスカイプで、オヘイガンは報告書提出で参加。

**3. 翻訳関連新科目の実施** 初年度研究の成果と議論に基づき、立教内で翻訳関連の新科目を3件立ち上げ、実施した。

「翻訳・通訳と現代社会」(後期・全カリ)担当：武田、山田。各方面の翻訳通訳実務者、ユーザーなどを毎週ゲストスピーカーとして迎え、現代社会の諸相における翻訳通訳活動を学生と議論した。影浦、井口がスピーカーとして参加。学生アンケートによると、学生の好奇心を刺激し、キャリア形成に役立つ情報を提供できた授業と評価された。

**研究【経過・成果】の概要 つづき**

「翻訳テクノロジー論」(前期・異文化コミュニケーション研究科)担当:オヘイガン。翻訳テクノロジーの変遷、利点と問題点、機械翻訳の原理と評価方法、テクノロジーに影響される翻訳分野の考察などを扱った3日間の集中講義。履修・聴講者11名。学生のコメントカードに逐次応えるインタラクティブな内容で、学生から高い評価を受けた。

「通訳翻訳教育論」(後期・異文化コミュニケーション研究科)担当:武田。前年度までの「通訳教育論」と異なり、翻訳に関心のある学生を取り込めた。特に、語学教育と翻訳教育の関連性、諸外国の翻訳通訳大学院の状況について活発な議論があった。最終レポートも意欲的な内容が多く、翻訳通訳教育に対する学生の関心の高さが伺えた。

4. **大学間合同ワークショップの実施** 初年度研究の成果と議論に基づき、合同WSを実施した。海外の大学との3点スカイプ接続、オンライン共有アプリなどを試験的に利用した。参加者のアンケート調査では、内容について高い評価を受け、接続技術面やアプリ利用でも問題がないという回答を得て、こうしたWSの実行可能性を検証できた。

「翻訳テクノロジー評価」(2013年11月26日)講師:立見みどり(東洋大学非常勤講師)。立教、モントレイ国際大学、輔仁大学をスカイプ接続し、機械翻訳品質についての各種評価法を評価するハンズオン演習を実施。参加者は立教、東大、モントレイ、輔仁の院生など23名。各参加者による評価をリアルタイムで共有し、統計結果をその場で議論できる手法が好評を得た。

「英日文芸翻訳」(2014年1月26日)講師:辛島デイヴィッド(立教大学兼任講師、東京国際文芸フェスティバル・ディレクター)。昨年度の研究活動に対する外部からのフィードバックに応え、文芸翻訳WSを実施。立教、モントレイ国際大学をスカイプ接続し、参加者が事前提出した翻訳(米国小説の一節の日本語訳)をもとに、批評と共同編集を行った。参加者は立教、東大、モントレイの院生など12名。活発な議論が展開された。

5. **学会での口答発表、論文など** 本研究に関連し各メンバーが積極的に書籍や論文を刊行し、国内外の学会で発表を行った。(詳細は次ページを参照)

6. **台湾、スペイン、米国における翻訳(通訳)大学院の訪問・調査** 武田が2013年9月台湾・輔仁大学、2014年3月にスペイン・サラマンカ大学、米国・モントレイ国際大学とメリーランド大学の各翻訳通訳大学院を訪問し、授業見学、担当教員や学生との意見交換、資料収集を行うとともに、各地で講演を行った。

7. **2014年度新科目・新シラバスの準備** 本プロジェクトの成果と議論をもとに、2014年度における新科目の立ち上げ、および既存科目の新シラバスの準備に取り組んだ。

「翻訳に関わる人々」(前期・全カリ)担当:武田、山田。「翻訳・通訳と現代社会」の発展的科目として、字幕、文芸、実務の翻訳3分野に絞り、翻訳者、編集者、プロジェクト管理者、依頼者などさまざまな参加者の活動を考察。翻訳演習も組み込んだ新科目。

「通訳翻訳特論」(前期・異文化コミュニケーション研究科)リーズ大学名誉教授で翻訳テクノロジーの専門家Tony Hartley氏を迎え、テクノロジーに関する翻訳理論と実践に焦点を当てた新シラバスの展開。翻訳支援ソフトの選定と準備。

「通訳翻訳実習1」(前期・異文化コミュニケーション研究科)合同ワークショップ講師を務めた立見みどり氏を迎え、プロジェクト管理、エディティングなどを現代的ニーズに応える翻訳実践に焦点を当てた新シラバスを展開。

※ この(様式2)に記入の、経過・成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A4縦型横書き1枚・自由様式)を添付すること。

**研究発表** (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

① 雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)  
山田優 (2013) 「誰がポストエディターになれるのか？」『翻訳研究への招待』10号, pp. 51-64.

Takeda, K. (2013). “The role of *Nisei* linguists during World War II and the Allied occupation of Japan”. 『翻訳通訳史国際学術会議』(台湾、2013年9月14日) 講演論文集. pp. 1-13.

②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)

Takeda, K. and Sekine, Y. (2014, forthcoming). *Translation of Japanese Laws and Regulations*. In Wagner, A., Sin, K., & Cheng, L. (eds.), *Ashgate Handbook of Legal Translation*. Surrey: Ashgate. pp. XXX-XXX. (総ページ数: 26)

Mangiron, C., Orero, P. and O'Hagan, M. (eds.). (2014). *Fun for all: Translation and Accessibility Practices in Video Games*. Oxford: Peter Lang.

O'Hagan, M. and Mangiron, C. (2013). *Game Localization: Translating for the Global Digital Entertainment Industry*. Amsterdam & Philadelphia: John Benjamins.

O'Hagan, M. (2013). The Impact of New Technologies on Translation Studies: A technological turn?. In Millán, C. and Bartrina, F. (eds.), *Routledge Handbook of Translation Studies*. London & New York: Routledge. pp 503-518.

O'Hagan, M. (2013). Understanding fan-translation: pop culture and geeks too cool for translation schools?. *Translation Right or Wrong*, pp230-245.

武田珂代子、山田優、他5名著 (2013) 『よくわかる翻訳通訳学』ミネルヴァ書房. pp. 10-11, 14-15, 22-23, 34-37, 43-45, 48-49, 68-73, 76-86, 94-101, 109-111, 114-115, 122-123, 126-127, 130-133, 156-163, 172-173.

山田優、他152名著 (2013) 『異文化コミュニケーション事典』春風社. pp. 320-322.

④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

O'Hagan, M. (2014). “Fans, Internet Crowds and Machine Translation: The translation profession and 'open' environments”. Invited plenary talk given at *TeTra 3: Collaboration, sharing, participation: translation and free software in the Web 2.0 era - Tecnologie per la Traduzione*, January 24-25, Forli, Italy.

Takeda, K. (2014). “Translating and Interpreting at the Tokyo Trial after WWII”. Invited speaker at the 6<sup>th</sup> Seminar on Legal Translation for International Organizations, March 7, University of Salamanca.

Hartley, A., 影浦峽, Thomas, M., 内山将夫. (2013). 「共同翻訳を考慮した『翻訳教育用みんなの翻訳』システム～みんなの翻訳第4報～」言語処理学会20回年次大会 (2013年3月18日)、北海道大学.

Hartley, T., Kageura, K., Thomas, M. and Utiyama, M. (2013). “MNH-TT to support collaborative translator training”. 日本通訳翻訳学会年次大会 (2013年9月8日)、神田外語大学.

山田優 (2013). 「大学・大学院における実務翻訳教育の再考：翻訳初心者に対する機械翻訳＋ポストエディットの導入の試み」日本通訳翻訳学会年次大会 (2013年9月8日)、神田外語大学.